



びょうき 病気になるのはなぜ

びょうき 病気のもととは からだ そと から

人間が病気になる原因には、病気のもとが 体 の外から入ってきた場合と、もともと、病気の原因が 体 の中にある場合とがあります。それに負けたとき、病気になるのです。

人間の 体 には、もともと病気にならないようにするための、いろいろなきくみがあります。たとえば、けがをして、病原菌 が傷口から入ると、血液の中にある白血球 が、この病原菌を食べてしまいます。また、かぜの病原菌 のウイルスは、空気中にいつもようよと飛び回っていますが、元気なときには、このウイルスが 体 に入っても、かぜを引きません。しかし、すいみん不足だったり、栄養のバランスが悪いときなどには、このウイルスに負けて、かぜをひいてしまうことがあります。つまり、体力 がおとろえ、ばい菌と戦う力が落ちたときに、病気になるのです。

からだ なか 体の中の病気のもと

体の中に、病気のもとがある場合もあります。がんのような病気です。とつぜん、体の中の細胞が、がん細胞をつくりだしてしまうのです。がん細胞は、病原菌のように、毒を出したり、体 の細胞をとかしたりするようなことはありません。ただ、そこにあるだけなのですが、あることが困る病気なのです。（監修・保志 宏）

